



希望のベール

Poems

By Steve A.D. Aklesso BODJONA

I / 2012

にほん わたし あた
日本は私にインスピレーションを与えてくれました。
わたし みりよう こころ
私を魅了して、いつまでも心をつかみつづけています。
はじめて日本を知ってからずっと、この国を愛し、尊敬してきました。
くに ひと よ あ ひかり はな そら たいよう
この国の人、まるで夜明けの光を放つ、空の太陽のようです。
つねに あい おも くにあふ ふるさと
つねに愛と思いやりに溢れたこのおもてなしの国で、故郷のように
かん
感じられないわけではないでしょう。
わたし みりよう こころ わたし そこく
私を魅了して、いつまでも心をつかみつづけ、いつも私の祖国ト
ゴを思い起こさせます。
にほん く に ゆうこう こくみん ゆうこう わたし
日本とトーゴの国の友好、そしてそれぞれの国民の友好や、私たち
ちか わたし ゆめ あた
が近くなつてほしいという私の夢が、インスピレーションを与えて
くれました。
ことば へい わ あい しあわ こうへい あんてい
言葉のひとつひとつが、平和、愛、幸せ、より公平で、安定した
せかい きぼう
世界への希望によって、つづられました。

スティーブ・アクレソ・ボジョナ

Le Japon m'a inspiré et je me suis laissé inspirer.

Il m'a conquis alors je me suis laissé faire.

Dès le premier contact, ce pays, je l'ai aimé et adoré.

Son peuple, il est à l'image de ce soleil qui dans le ciel vous fait découvrir l'aurore.

Plein d'amour, d'hospitalité, toujours disponible et rempli d'humanité, comment ne pas se sentir chez soi ?

J'ai été séduit et je me suis laissé embrasser par ce pays qui me fait toujours penser à ma chère patrie le Togo.

L'amitié entre le Japon et le Togo, entre les Japonais et les Togolais et mon rêve de nous voir encore plus unis m'a inspiré. Chacun des mots a été guidé par la paix, l'amour, le bonheur et l'espoir d'un monde plus juste et plus stable.

Steve A.D.Aklesso BODJONA

わたし　こころ　なか
1 - 私の心の中

わたし　ゆめ　はと
2 - 私の夢の鳩

はは
3 - 母

に　ほん
4 - 日本

くに　かえ
5 - 国へ、帰って…

き　も
6 - さびしい気持ち

じしん
7 - 地震

しあわ　はと
8 - 幸せの鳩

せ　かい　こうふく
9 - 世界に幸福

つき
10 - きれいな月

に　ほん
11 - 日本とトーゴ

あい　くに
12 - いつも愛している国

わたし こころ なか
1 - 私の心の中 (2010 年 2 月 22 日、大阪にて)

わたし こころ なか なに
私の心の中に、何かがおこります

さいきん おんなひと あ
最近、きれいな女の人に、会いました

ひ わたし しあわ
その日から、私は幸せになりました

まいあさ お はな わたし こころ
毎朝、起きてから、その花で、私の心をきれいにかざっています

ひ ひ しぜん わたし め うつく
日に日に、自然は、私の目に、美しくうつります

いま はな さ
今、その花は、どこに咲いていますか

いちど あ さが
もう一度、会いたい！ 探しています

わたし こころ なか はな
私の心の中に、きれいな花がいます

わたし こころ なか なに
私の心の中に、何かがおこります

あさ ひる ばん はな おも だ
朝ごはんや、昼ごはんや、晩ごはんのとき、その花を思い出しています

わたし はな こい
私は、その花と恋におちます

わたし こころ なか たいせつ
私の心の中に、大切なことがおこります

2 - 私の夢の鳩 (2010 年 2 月 27 日、長崎にて)

わたし ゆめ はと
私の夢の鳩

あなたがいるから、私の日は、いつも楽しいです

もし、あなたの笑いを失ったら、

私の人生は、雲の上に、飛んでしまいます

わたし ゆめ はと
私の夢の鳩

あなたというと、私の空は、青より青いです

あなたと散歩するとき、私の太陽は、光より輝きます

わたし ゆめ はと
私の夢の鳩

あなたがいるから、日没は、月の影より、きれいになります

あなたというと、私の心の中に、幸せな鳩が生まれます

3 - 母 ^{はは} (2010 年 4 月 27 日、大阪にて)

^{わたし}私の、^{あい}はじめての、^{ひと}愛している人

^{わたし}私の^う生まれる^{まえ}前に、^{わたし}あなたはすでに、^{あい}私の^{ひと}愛する人

^{こども}子供のときから、^{あい}あなたを愛している

あなたが、^{わたし}私に、^{すべて}全てをしてくれる

^{わたし}私の^{あい}愛は、^ひ日に^ひ日に、^{おお}大きくなっていく

^な泣くとき、あなたが、なぐさめてくれた

^ね寝るとき、あなたの^{こもりうた}子守唄が、なぐさめてくれた

あなたが、^{わたし}私に、^{ある}歩く^{みち}道を、^{おし}教えてくれた

^{いま}今も、あなたが、^{わたし}私を^{みちび}導いてくれる

^{だいす}大好きな母、^{はは}いつまでも、あなたが、^{わたし}私の^{こころ}心に^す住んでいる

4 - 日本 ^{にほん} (2010 年 5 月 15 日、大阪にて)

^{たいよう} ^{のぼ} ^{くに}
太陽の昇る国

^{たいよう} ^{のぼ} ^{くに}
太陽の昇る国

^{きもの} ^{くに}
着物の国

^{ゆうあい} ^{へいわ} ^{くに}
友愛と平和の国

^{ほこ} ^{たか} ^{きんべん} ^{ひとびと} ^{くに}
誇り高く、勤勉な人々の国

ある人は Japan、またある人は Japon、

にほんや、にっぽんと、その名^なを呼^よぶ

^{ゆた} ^{ぶんか} ^{たか} ^{ぎじゆつ}
その豊かな文化と、高い技術

^{くに} ^こ ^{ひろ}
国を越えて、広がっていく

^{たいよう} ^{のぼ} ^{くに}
太陽の昇る国

^{へいわ} ^{くに}
平和の国

^{こうふく} ^{あい} ^{くに}
幸福と愛の国

^{くに}
おもてなしの国

^{にんげん} ^{まじ}
人間の交わる場所

^{こころ}
心から、

ありがとう、ありがとう、ありがとう

5 - 国^{くに}へ、帰^{かえ}って… (2010年5月28日、研修を終え大阪を経つ際に)

にほん にほん にほん
日本、日本、日本

また来^きたい、

にほんじん ともだち
日本人、友達

くに かえ
国へ、帰って、なつかしく

せんせい
先生

くに かえ
国へ、帰って、かなしく

ともだち
友達

くに かえ
国へ、帰って、さびしく

お いつしょ けいけん おも だ
起きて、一緒にした経験を、思い出す

やす ひ ね おも だ
休みの日、寝るときも、思い出す

いつも おも だ
いつも思い出す

にほん にほん にほん
日本、日本、日本

また来^きたい、

にほんじん ともだち
日本人、友達と

また話^{はな}したい

せんせい あ
先生に、また会いたい

ともだち
友達と

また会^あいたい

6 - さびしい^{きも}気持ち (2010 年 4 月 27 日、ロメにて)

きよねん くがつ にほん
去年の九月に、はじめて日本へ

うつく くに で あ
美しい国に、出会いました

はちかげつ にほん す
八ヶ月、日本に住んでいたとき

しんせつ ねっしん にほんじん あ
親切で、熱心な日本人に、会いました

あいだ く き ひと
その間に、いろいろな国から来た人と、

ともだち かぞく
友達になって、いい家族をつくりました

けいけん
ユニークな経験でした

はちかげつ あいだ にじゅうご こくせき とも く
八ヶ月の間に、二十五の国籍と共に暮らして

せかい ちい
世界が、小さくなりました

ざんねん はちかげつ みじか
残念ながら、八ヶ月は短かった

くに かえ
国へ、帰りました

かえ
帰るときは、うれしかった

いま
今、さびしい

ともだち
友達が、いない

にほん せいかつ
日本の生活も、なつかしい

にほん とお
日本も、遠い

にほんじん あ
日本人にも、あまり会わない

さびしい、さびしい、さびしい

かみさま わか かな
神様、どうして別れは、いつも悲しいのですか

7 - ^{じしん}地震 (2011 年 3 月 15 日、東京にて)

^{こま}困った、^{こま}困った

^{じしん}地震だった

^{こま}困った、^{こま}困った

^{はじ}初めて、^{じしん}地震

^{しんぱい}心配する

^{かみさま}神様、^{かみさま}神様

^{まも}守って

^{かみさま}神様、^{かみさま}神様

^{あんしん}安心させて

^{かみさま}神様、^{かみさま}神様

^{なぐさ}慰めて

^{かみさま}神様、^{かみさま}神様

^{じしん}地震だった

8 - ^{しあわ}幸^{はと}せの鳩 (2011 年 10 月 20 日、ロメにて)

^{しあわ}幸^{はと}せの鳩

どこにいても、^{へいわ}平和

^{いま}今どこ

^{はや}早く、こ^きっち、来て

^{へいわ}平和^もを持^きって来て

^{しあわ}幸^{はと}せの鳩

どこにいても、^{あい}愛

^{いま}今どこ

^{はや}早く、^{せかい}世界^{つつ}を包んで

^{あい}愛^もを持^もって

9 - 世界に幸福 (2011 年 11 月 12 日、横浜にて)

け さ あめ
今朝、雨がふる

かみさま へいわ
神様から平和

ひとびと しあわ
人々の幸せ

せ かい
世界に

あい
愛

ゆうこう
友好

り かい
理解するように

け さ あめ
今朝、雨がふる

かみさま へいわ
神様から平和

ひとびと しあわ
人々の幸せ

せ かい
世界に

せんそう
戦争

こま じ たい
困った事態

いた き
痛み消えるように

10 - きれいな月^{つき} (2011 年 12 月 30 日、千葉にて)

あめでも

ゆきでも

どこでも、あなたに あいにいきます

さむくても

あつくても

どこでも、あなたを まっています

げんきでも

びょうきでも

いつでも、あなたが いると、つよく感じます

ひるも

よるも

いつでも、あなたの ことを、おもっています

よくても

わるくても

なんでも、あなたから もらうと、あいします

すきでも

きらいでも

なんでも、あなたに つくってもらうと、おいしくなります

どこでも、いつでも、なんでも

あなたが いると、わたしの じんせいは らくえんに なります

11 - 日本とトーゴ (2012 年 1 月 5 日、東京にて)

アジアにある^{くに}国、^{にほん}日本

アフリカにある^{くに}国、トーゴ

^{ばしよ}場所は、^{とお}遠い

^{ひとびと}人々の心の中では、^{なか}
^{ちか}近い

アジアにある^{くに}国、^{にほん}日本

アフリカにある^{くに}国、トーゴ

^{へいわ}平和の^{くにぐに}国々

おもてなしの^{くにぐに}国々

アジアにある^{くに}国、^{にほん}日本

アフリカにある^{くに}国、トーゴ

^{ばしよ}場所は、^{とお}遠い

^{ひとびと}人々の心の中では、^{なか}
^{ちか}もっと近い

アジアにある^{くに}国、^{にほん}日本

アフリカにある^{くに}国、トーゴ

^{がいこうかんけい}外交関係のパートナー

12 - いつも愛している国^{あい くに} (2012 年 1 月 13 日、東京にて)

いつも愛^{あい}している国^{くに}、トーゴ

へいわ あんてい くに
平和で安定した国

う
生まれたときも、あなた

いつも愛^{あい}している国^{くに}、トーゴ

おもしろ ぶんか くに
面白い文化の国

しぜん うつく
自然も美しい

いつも愛^{あい}している国^{くに}、トーゴ

おもてなしの国^{くに}

せいかつ たの
生活も楽しい

いつも愛^{あい}している国^{くに}、トーゴ

あなたに愛^{あい}国^{こく}心^{しん}のある気^き持^もち

著者について

スティーブ・アクレソ・ボジョナ氏は、1982 年 9 月 21 日生まれ。ロメ大学法学部修士課程修了。トーゴ国立行政学院修了(外交専攻)。

トーゴ共和国外務省に勤め、2009 年 9 月から 2010 年 5 月まで国際交流基金の関西国際センターで日本語の研修を受けました。

この研修期間中に日本語を書くことへの情熱を感じ、日々の出来事や経験からインスピレーションを受けて、詩を書くようになりました。

著者は自身の日本語のレベルに合った、親しみがもてるシンプルな日本語で、喜び、愛、平和、希望、幸せを自由詩で表現しました。

本詩集を通して著者の感情、日本という国や、日本人への思いが伝えられ、また彼の祖国であるトーゴへの愛や、日本とトーゴの間にある良好な関係についても語られています。

この 12 編を収録した詩集が刊行された現在、ボジョナ氏は 2010 年 10 月 25 日に駐日トーゴ共和国大使館が開設されて以来、臨時代理大使を務めています。



Steve A. D. Aklesso BODJONA est né le 21 septembre 1982. Il est titulaire d'une Maîtrise en Droit obtenue à l'Université de Lomé et d'un diplôme du cycle supérieur de l'Ecole Nationale d'Administration du Togo (option diplomatie).

En fonction au Ministère des Affaires Etrangères du Togo, il a participé, de septembre 2009 à mai 2010, à un programme de formation à l'Institut de langue japonaise d'Osaka.

Mêlant sa passion de la poésie à l'apprentissage de la langue japonaise, il commença à transcrire en poèmes les événements et expériences liés à son vécu quotidien.

Dans un style simple et accessible, qui correspond à son niveau de la langue japonaise, l'auteur exprime dans des vers libres des mots de joie, d'amour, de paix, d'espoir, et de bonheur.

Il nous livre ses sentiments, son appréciation pour le japon et pour les japonais, nous parle de son amour pour son pays le Togo et aussi des bonnes relations qui existent entre le Togo et le Japon.

A l'heure de la publication de ce recueil de douze poèmes, Steve A.D. Aklesso BODJONA est le Chargé d'Affaires de l'Ambassade du Togo au Japon depuis son ouverture le 25 octobre 2010.